



2024-25年度 国際ロータリー会長テーマ
『ロータリーのマジック』
RI 会長 ステファニー A. アーチック

川崎北ロータリークラブ会長テーマ
『時代の変化と融合し、新しいロータリーライフを』
会長 波木井 輝昭

Rotary
川崎北ロータリークラブ

川崎北ロータリークラブ会報

会長 波木井 輝昭

幹事 石坂 想

会報委員長 大塚 正一

事務所：〒211-0063 川崎市中原区小杉町 3-70-4 ホーユウパレス武蔵小杉 104 TEL 044-722-8037 メール：knrc@nifty.com

URL：http://kawasaki-north-rc.blue.coocan.jp/

例会：毎週水曜日 12：30 二子玉川エクセルホテル東急

第 3069 例会

令和 6 年 9 月 18 日 (水)

(本年度第 8 回)

点 鐘

波木井輝昭 会長

司会と斉唱

丸山久 会場監督

菅沼舜 ソングリーダー
「手に手つないで」

出席報告

会員数 36 名	出席 22 名	欠席 14 名
(対象外 1 名)		出席率 62.86%

前々回訂正	欠席 11 名	MAKE UP 1 名
(対象外 1 名)		訂正出席率 68.57%

お客様紹介

波木井輝昭 会長

ゲスト・スピーカー

日本製鉄株式会社 代表取締役副会長 兼 副社長 森高弘 様

佐久間会員ゲスト 梶原誠 様

国際ロータリー第 2590 地区

直前ガバナー・神奈川 RC 樋口明 様

神奈川 RC・社会奉仕委員長 吉村真由美 様

地区米山学友委員長 川崎マリーン RC 増田 敏雄 様

横浜港北 RC 藤原友子 様

川崎南 RC 恵崎和則 様

川崎中 RC 会長 野口新二 様

川崎中 RC 代田美紀 様

川崎鷺沼 RC 小川湧三 様

菅沼会員ゲスト 中野忠則 様

妻鹿会員ゲスト 寺島彰吾 様

妻鹿会員ゲスト 大原はじめ 様

会長報告

波木井輝昭 会長

1.65 周年記念旅行 無事終了の報告

幹事報告

石坂想 幹事

1.地区からの来信

① 地区 R 財団セミナー開催のご案内が届いております。

2024 年 10 月 1 日 (火) 15：00～17：30

於：メモワールプラザソシア 21 ※波木井会長 出席

② RLI(ロータリーリーダーシップ研究会) パート 2・

パート 3 開催のご案内が届いております。

パート 2：9 月 29 日 (日) 9：00～15：30

聖光学院

パート 3：10 月 22 日 (火)・10 月 25 日 (金)・10 月 29 日 (火)

いずれも 18：00-20：30

Zoom 開催

※参加ご希望の方は、テキスト代 1,500 円を添えて、事務局までお申込みください。

③ 国際ロータリーゾーン 1A、2&3 第 53 回ロータリー研究会
と関連行事へのお誘いが届いております。

本行事は、RI 会長と TRF 管理委員長ご出席のもと、不随
行事も含め 2024 年 12 月 12 日 (木)～15 日 (日) の 4 日
間、全国ガバナー、パストガバナー、ガバナーエレクト、ガ
バナーノミニエを対象に開催されます。本年度は、ガバナー
補佐、地区委員長、クラブ会長、会長エレクトもゲストとし
て参加できることとなりました。ゲスト参加対象の方にご希
望を伺います。

④ 「RID2590 卓話バンク」と「Web ロータリアンマップ」の
ご紹介とメンテナンス・新規登録等のお願いがきております。

⑤ 地区主催 世界ポリオデーに参加・応援のお願い。
お申込みいただきましたポリオの T シャツ、本日お渡しいた
します。10 月 6 日 (日) 13：00-17：00 は、ポリオ T シャ
ツを着用頂き、会員・ご家族お誘いあわせの上、横浜市役所
アトリウムへお越しください！

2.他クラブ例会臨時変更

● 川崎高津 RC

9 月 19 日⇒21 日 (土)

移動例会「献血活動」溝の口駅前

9 月 26 日 (木) 夜間例会 クラブ協議会 点鐘 18：00

3.川崎宮前 RC より、電話番号変更のご連絡が届いております。

9 月 5 日より、080-2562-9385 に変更

FAX なし

委員会報告

大塚正一 ガバナーエレクト

今週の日曜日に平和フェローの今期 9 月 23 日の歓送迎会に行っ
てきました。樋口直前ガバナーもいらっしゃいました。

平和フェローはロータリーの会員の理解がちょっと薄いとい
うことで、国際ロータリークラブの理事も気にされておりますので、
今年度の平和フェローの名簿を皆さんのテーブルの上に置かせて
いただきました。うちの地区でカウンセラーをするのは 2 名の方。た
だ、カウンセラー 2 名だけに任せるのではなく、やはり地区全体で
サポートをしていかないといけないと思います。

また、私の年度の地区大会には、今、平和フェローでデューク大学に
行かれている深谷さんにお話を伺うようにしております。皆さん、平
和フェローを理解して応援していただけるようによろしくお願いいた
します。うちのクラブではずっとクルーズさんが一人でやっていて、
他の方は全然ノータッチで、平和フェローを知らない人もいるんじや
ないかと思われますので、ここに御紹介させていただきました。

また、今年度ポリオデーが 10 月 6 日に行われます。石坂幹事から
も皆さん参加するようにということでお願いしましたが、ポリオの
T シャツを買っていただきましてありがとうございました。是非そ
れを着て参加いただきたいと思います。

柳澤先生には、今回は医師としてホリオデーに参加をお願いして、
快く引き受けていただきました。ご存じのように、柳澤先生は当ク
ラブの最長老で 89 歳になられるそうです。その方が応援に駆けつ
けて仕事をしていただけたということですので、それより若い方は
全員参加、という気持ちでよろしくお願いいたします。



「US スチール買収の舞台裏」

US スチールの買収についてということでも世間を騒がせておりますけれども、今日は最初に少し日本製鉄とはどういう会社かということ、今回の買収の背景、あるいは今回の買収の狙い、これまでの取り組み状況とクロージングに向けてということでお話しさせていただきます。

ただきたいと思います。

まず、周辺を見渡していただいて、鉄というのはどんなものかなと考えていただきたいと思います。自動車をはじめ家電あるいは船、建設機械、ビル、鉄骨、あるいは橋梁、土木、あらゆるところに鉄は使われています。色々な産業が発展していく上で、あるいは社会生活を行っていく上でなくてはならない素材ということで、空気のような存在になっています。

日本製鉄は製鉄事業がコアビジネスです。かつては半導体やパソコンとか、いろいろな多角化を試みましたが、現在も製鉄事業が91%で、売上としては約9兆円の会社です。日本のシェアで44%、半分弱が当社のシェアということですので、皆さんがご覧になって鉄だな、と思ったものの約半分は当社の製品と思っていたら間違いありません。

世界的には、日本製鉄の前身の新日鉄が世界一になったことが何度かあります。ただし、今は世界の半分の鉄が中国で作られていて、世界で見たら4位、中国を除けば2番目に大きな大きな会社です。住友金属と新日鉄が合併して出来た会社ですが、その後、合併後の最高利益というのが4,900億で、当時の最高益でありました。その後だんだんと利益が下がっていきます。大変苦しかったのは2020年で、そこで私たちは中期計画というのを作り、どうすれば成長できるのかというのをもう一回見つめ直しました。それからV字回復を始めます。その後、6,000億という利益水準をどんな環境にあっても下回らないということの一つの目標にしようということで頑張っています。去年は最高益となり、9,350億という利益を上げています。今年は環境が非常に悪いということ、あるいは成長に向けていろいろ投資をしている時期にあるということで7,600億が今の見通しです。来年には9,000億にもう一回戻る、これがほぼ確実に見えています。これは今まで投資してきたものの効果が出てくるということです。

これには今取り組んでいるUS スチールの買収の効果は入っていません。これでの買収効果がどのくらいあるかと言いますと、実績で言うと約1,520億がこれに乗ります。

9,000億を柱に考えますと優に1兆円を超えていくということで、常日頃1兆円を一つの中期的な目標にしています。これがもう射程に入ってきました。

今回の買収の背景なのですが、まず、国内の鉄鋼事業は非常に環境が厳しいです。1990年の9,400万トンというのが鉄鋼の日本として国内の需要のピークです。それからだんだんに落ちてきて、今5,000万トンちょっと、一時期の約半分まで国内需要としては落ちてしまいました。

そういう中で、企業として成長を狙って、海外事業というのを手がけています。2014年の頃は、海外事業は10%もありませんでしたが、今はかなり大きな部分を占めています。一つは成長めざましいインドにかなりの投資を行っています。それからホームマーケットであるASEAN、特にタイでリソースを費やして事業を行っています。

加えて、世界最大の高付加価値のマーケットであり、今、再び成長を続けている米国です。この米国の成長は、一つは移民を受け入れているということもありますが、もう一つは、中国との関係もあります。製造の簡単な物はほとんど中国に移って、鉄需そのものもアメリカから消えました。それがいわゆる米中の対立もあって、今では国内に回帰してきて、米国のマーケットの鉄需は再び成長の軌道に乗ってきたということです。もう一つの成長の過程は、我々は厚みのある経営と言っていますが、原料、鉄鉱石ですとか原料炭、これはどちらかという買う対象だったのですが、それを事業の対象に考えています。これは購買から事業へということで、垂直統合です。そういうことで、原料の鉱山にも投資を始めています。

では、肝心のUS スチール買収というのはどんな狙いがあるのかということについて少し説明します。

まず、両者の強みを合わせてUS スチールの成長を実現するというのが大テーマです。私が最初にUS スチールのCEOと会ったときには「一緒に成長しましょう」とお話ししました。彼も非常にそれに感銘を受けてくれて、いろいろな議論をその後一緒にする事ができました。

日本製鉄の強いところはどこかということ、まず商品技術力がある事です。これは車用の鋼板ですとか、EVのモーターに使う、あるいは変圧器に使う電磁鋼板など、世界一の品質と性能を持っています。同じEV用モーターに使う場合にも当社のものを使うか、他社のものを使うかで、同じバッテリーでも航続距離が全く変わるといぐらい効率の良いものです。こうした商品技術力を移植していくことを話しています。

それからもう一つは、操業設備技術力です。当社は非常に効率的な製造能力がある技術を持っています。加えて、エネルギー効率ですとか省エネだとか、そういうことにおいては、日本はほぼ世界のトップレベルです。設備技術力ですが、当社は設備エンジニアだけで1,600人居ます。ほとんどの国の鉄鋼メーカー、あるいは他のメーカーも含めて、大体がコストオーバーランして工期の遅延が起きますが、そういうことを起こさずにきちんと対応することができるという事です。

それから、脱炭素技術が今すごく脚光を浴びています。実験高炉での技術ですけれども、高炉を使って33%のカーボン排出量を落とす事に成功して、最終目標としては50%超の排出ガスを削減しようとしています。

実は鉄をつくる方法に2つ大きな流れがあって、一つは高炉という当社が得意としている製法ですが、これは一番効率的にピュアな鉄をつくる方式ではあるんですが、残念ながら炭素をすごく排出するんです。それに対してスクラップを使って電気でそれを溶かす電炉という製法は、炭素の排出量が約半分環境に優しいと言われています。

高炉を使いながら50%炭素排出量を落とせば電炉と一緒にになるので、慌てて電炉に移っていかなくてもいいという技術です。これで世界の先端を走っているわけです。

実は世界中の高炉メーカーというのはできるだけ電炉化をしようということで、欧米ではほとんどのメーカーが電炉に移ろうとしています。もし全ての高炉メーカーが電炉に移れば高級スクラップの取り合いになってスクラップの値段が上がり、結果として競争力を失います。ですから、すぐれた最新鋭の電炉と高炉設備を持っているというのは大きな競争力になります。

加えて、高質な鉱山を持っているということになると、これは次の世代では大きく成長する可能性があります。

これがUS スチールの強みです。鉄鉱石、高級な鉄鉱石です。それと古い設備ですが、高炉を持っています。それから最新鋭の電炉を持っています。彼らはこの最新鋭の電炉を使って、高炉から電炉にシフトしていくことを考えてました。これが当社の脱炭素の技術とつながると、ものすごく素晴らしいハイブリッドになります。原料を持っている。高炉も脱炭素化できた高炉に生まれ変わる。今のインフラを全部使えて、それと最新鋭の電炉があり、彼らだけではできなかったことが実現できるような、大変競争力のある設備にできると考えています。

それから、私どもの方の強みの方に戻りますと、強固な財務体質があります。投資適格のレーティングを持っているのは当社だけで、ほかのアメリカの鉄鋼メーカーは全て投資不適格なレーティングしか持っていません。そのため財務体質として極めて強靱な組織がパートナーにつくということになります。

そして新たな投資と技術のイノベーション、これを使ってUS スチールを成長させるというのが我々の大きな狙いです。100%吸収合併いたします。皆さんおわかりになると思うんですが、コアのところは自分の中にとっておかないと発展がないため、ジョイントベンチャーですと技術を100%出すことができません。ところが、これは100%子会社なので全てのことを共有できます。加えて、研究開発投資でいうとこちらは米ドルで500ミリオンを毎年研究だけのために使っていますが、US スチールが負担できているものの10倍です。よく見るとアメリカ全体の鉄鋼業が研究開発に使っているものよりも我々1社の方が多いです。その成果をUS スチールと100%共有できるわけです。したがってUS スチールにとっても大変得なディールであり、成長を狙った投資だということを御理解いただけたと思います。結果として、US スチー

ルが強くなるだけではなくて、米国鉄鋼業全体が強くなり、ひいては車産業ですとか、家電産業ですとか、アメリカにある鉄を使うサプライチェーンの産業も強くなるということで、ひいてはアメリカ全体の、ナショナルセキュリティ上のプラスになるということを我々は主張しています。

この合併の大きな狙いとしては、一つは自分自身の成長、アメリカという最後のグローバル事業のピースの追加というのが一つ。もう一つは、長い目で見て日本の産業を活性化したいということで、日本の技術、日本の資金による成長を達成して日本自身の元気が出るような形にできないかということで、ぜひこれを成功させたいと思っています。

では、これをどうやって実現できるのかということ、それには4つのハードル、言い方を変えると4つのミッションをコンプリートしなければいけません。

ミッションその1は、US スチールの入札プロセスに勝ち残ることです。まず去年の8月13日にUS スチールが売りに出しました。要するにこの会社を買収の対象になりました。なぜそうなったのかということ、当時はさっき言った最新鋭の電炉を買収する投資が先行して、その投資から出てくるものをまだ会社として享受する前であり、株価が非常に低迷していました。実際の彼らのバリューよりも株価が低くなっていましたので、いろいろな会社がこの会社を買いにきました。

ここで、クリーブランド・クリフスという会社が初めてTOBをかけました。株主に対してこの値段であなたの株を買いますよということを発表しました。そうするとUS スチールの経営陣は手が出ません。ではそのクリーブランド・クリフスが自分のパートナーとして問題なければ良かったのですが、そうではありませんでした。

最もいい相手を探すという意味で、オルタナティブストラテジックプロセスというのを始めました。入札プロセスで、より広く、いろいろな方に聞かかけて、自分たちを幾らで買ってくれますかと、初めたのがこのプロセスです。それで、二次にわたる審査を行い、12月18日に我々が選出されて、共同記者会見で発表ということに至ったわけです。これで1つめのミッションは既に終わっています。

2つ目のミッション、US スチールの株主総会でちゃんと投票してこの買収を認めてもらうというのが2つ目のミッションです。これは今年の4月12日に開催された株主総会で、行使比率73%、その中で99%の株主が賛成票を入れてくれました。圧倒的多数で決まりました。

ところが、入札プロセスでさっき手を挙げていたクリーブランド・クリフスという会社が、妨害工作を行います。US スチールの株主に対してある事ない事を並べて、これに賛成しないようにいろいろな工作をしました。我が社が中国で人権を侵すようなことをやっているとか、あるいはアメリカのマーケットを貿易で潰そうとしているとか、いろいろなことを言われましたが、株主の方にはちゃんと評価をいただいて、これを通すことができました。

3つ目、これが今のステージで、規制当局の承認を獲得することです。当局の承認とは何かと言うと、独占禁止法、マジョリティを取り過ぎちゃいけないという事と、CFIUS という審査があります。CFIUS というのは皆さんに馴染みがないと思いますが、これは米国について外国の企業が投資する際に、この企業が投資をして、ナショナルセキュリティ上大丈夫かという審査をする官庁横断的な委員会です。

国防省から、財務省から全部の役所が入って、それを審査してナショナルセキュリティ上の問題があるかどうかということを見ていくというのがこのCFIUS という委員会です。この当局審査においては、米国のマーケットに入るにも、米国以外の国の独占禁止法の承認を得る必要があって、それらを全部とりました。残っているのが米国の独占禁止法の審査と、CFIUS の審査、この2つだけが残っています。

ここでたまたま大統領選の年であるという事で、非常に政治的な状況に直面することになりました。

最後の4つ目が組合との良好な関係の構築です。彼らの承認を得なければ買収できないということはないのですが、やはり長い付き合いになるので、きちんと建設的な関係を構築したいということで、我々はずっと真摯に対応してきました。ですが、もともと実はUS スチールの経営陣と、今のUSW という組合は非常に仲が悪いのです。

さきほどから電炉と高炉の話がありますが、高炉は組合で、新鋭の電炉というのは組合ではありません。US スチールは高炉から電炉へ主軸を移そうとしたため、組合から見ると、自分たちの職場がどんどん失われて、このままでは自分の職がなくなってしまうでしょう。そういう投資をした経営陣ということで、極めて厳しい目で見えていました。私も12月18日に初めて記者会見したときには、どういう経営をするんですかと問われましたが、私が答えたのは「今の経営陣をリスペクトしていますから、それを継承して、まずはやりたい。その後日本製鉄流に変えていきます」と至極当然に当時は答えました。そのことが組合にはすごくカチンと来たんですね。今の経営陣の延長という事で、どんどん高炉から電炉に移すんじゃないかと思ったわけです。その後、そうじゃなくて、高炉も電炉も、品質の高い鉱山も持っていることが価値なんだから、全部に投資するシステムが大事なんですよという話をしているんですが、なかなか理解されないというのが今の組合との関係ということになります。ただ、いずれにしても、今申し上げた2つの審査と、組合との友好関係をつくっていくというのが大きな課題として残っています。

この組合、USW なんですが、この本当の名前は何かというと、一般的にはUnited Steel Workersと言われています。ですから鉄鋼労働者の組合だと思われるわけですが、実はThe United Steel, Paper and Forestry, Rubber, Manufacturing, Energy ……等々どずっと続きます。美容室なんかもこの組合に入っています。

ここ10数年アメリカで起こってきたことですが、どんどん組合が衰退していき、衰退していく中で、いろいろな組合と一緒になっていました。そうして出来た組合なので、80万人居るうちの鉄鋼労働者はそのうち3万人ぐらいです。ですから鉄鋼労働者は非常にマイノリティーなんですが、名前だけが残っている。

US スチールにとっては組合員は全部この所属ですから100%なんですけれども、組合の側から見ると、別にUS スチール、スチールそのものは、それほど大きな関心事ではなくなっているという難しさがあるんです。ただ、80万票を持っているので、政治的には影響力があります。それを狙って共和党も民主党も組合に働きかけていくわけです。

もう一つの大きな理由は、ペンシルバニア州です。組合のあるピッツバーグはペンシルバニア州にあります。ペンシルバニア州というのはスウィング・ステートと言われて、大統領選の最後を決める州でもあります。19人もの選挙人が居て、そこをとった大統領、候補が勝つという州だと言われています。実際にこれまでここを落として勝った大統領というのはほとんどいません。ですから、ここをみんな取りに来ているということです。

もう一つは、先ほどのCFIUS だとか独禁法の審査をする司法省。これのトップは大統領のバイデンさんの選んでいる方ですよね。いろいろな役職のトップも全て、政治任命なんです。ですから、客観的な審査をするといっても、どうしても政治的な要素が絡んでくるというのがこういう審査の内容になります。

とにかくこのUSW の支持が欲しいということなんですけれども、このUSW は、先ほど申し上げたクリーブランド・クリフスという会社と大変タイトに結びついています。そのせいか、反対する理由がありません。反対しているのです。

クリーブランド・クリフスの目的は明確です。クリーブランド・クリフスとUS スチールと一緒になると、例えば自動車向けというとほぼ9割ぐらいがこの二社のシェアになります。そうすると、圧倒的な交渉力になります。そういうことを狙っています。鉱山でいえば、アメリカのほぼ100%が手の中に入ります。これも独禁法に照らしたら全然話にならないくらいの話なんです。そういう大きな力を持つようにするという事がクリーブランド・クリフスの大きな目的です。ですから、今も彼らは反対しています。なぜ我々が入ることに反対するのかといえば、日本スチールがUS スチールとくっついてで上がる競争力の強さを恐れているのです。技術もある、お金もある。US スチールに入った時、US スチールはものすごく強くなる。それに彼らが対抗できないので、これを避けようとする。ですから、競争相手をなくす、弱めるという意味でこのディールに反対していて、強い結びつきのある組合がそれを受けて反対しているという構図です。

このUSW のトップが反対して、我々とあまり話そうとしなかったのです。それでどうしたかと言いますと、US スチールの下には従業員、組合員がいます。その組合員の方と直接話をすると、実は正しい情報が全然流れていませんでした。非難するような情報しかなくて、従業員の方もそう信じていました。加えて、地域の方とか、あるいは州知事、地方議員、上院下院もそっちの情報をすごく見られていました。それを覆さなくてはならないという

ことで、何をしたかと言いますと、5、6、7月と、従業員含めて政治・ビジネス・地域のリーダー達約1,000人の方と直接対話をしました。ポッドキャストやテレビにも出て話をしました。非常によかったのは、こうやって直接話をすると誤解が解けます。より知れば知るほどディールの後押しをしてくれるようになりました。

アドバイザーのボンペイオさんはトランプ政権時の國務長官ですが、この方は本当にこのディールをアメリカのためになるということで、彼の方から話をしてきました。良く「高いんじゃないですか」と聞かれますが、極めて安いんです。彼はお金のためでなく、このディールがアメリカのためになるのでぜひ応援したいということで、今もアドバイザーになってくれています。直接向こうのテレビに出る、大手の新聞で書く等では我々を書いて同じ効果は得られません。彼みたいな有名な方が書いたり喋ったりしてくれると非常に効果があるので、非常に助かっています。

そういう中で、今申し上げた3つの審査、あるいは組合との関係を良くしていかなければなりません。大統領選の終わる11月5日から年末までの間に着地させようとしています。

そこで政治状況が変わります。今まで受けている政治的な圧力がなくなるということで、速度調整しながら、この機会に全てを着地させようとしています。では、どうやって速度調整するのかというと、Pull&Refileを行います

こういう審査は、CFIUSの審査であれば45日+45日と2回の審査期間が決まっています。審査期間が終わるのが9月20日前後なんですけれども、これが終わるとCFIUSの結論は大統領に上がり、大統領が最終判断をします。今の政治状況の中で、バイデンさんに我々の全てを預けるのは極めてリスクが高いという事で、我々が行おうとしたのはPull&Refileです。要するに、一回審査を取り下げて、すぐにもう一度審査に乗せると、もう一回45日のカウントが始まります。9月20日頃にやると、11月上旬のちょうど選挙が終わったところに1回目で、90日になると12月下旬とちょうどいいところに終わるようになる。そういった速度調整をしようとしていたわけです。ところが、8月の末にCFIUSから、ナショナルセキュリティ上の懸念がある、こう言われたわけです。何の懸念もないと我々は思っていましたので、これはやはり政治的に潰しに入ってきたのだらうか疑いました。ちょうど同じころ、バイデン大統領がブロックの準備を始めたというニュースが流れました。

実は、起こっているのは全てが政治的なのですよね。例えば大統領補佐官には2種類あります、一つは政策補佐官です。国をどうやって良くするかという政策を考える人たち。もう一つは、今の時期ですと選挙対策の補佐官がいるのです。この時期には政策補佐官の力がなくなって選挙対策の補佐官が力を得ます。政策補佐官の人たちはみんな応援してくれていました。けれども、選挙のことだけを考えている人たちはそれに反対する。その反対する理由も、これは国のためにならないから反対するとかじゃなくて、これをブロックすることがペンシルバニアを取ることに役に立つのか立たないのかと、もっと言うと、ラストベルト地帯と言う広い工業地帯の戦況を、トランプとの戦況を変えるのに役に立つのかどうか、そういう視点だけで見えています。

それで当初彼らは、これはブロックした方が選挙のためになると思ったのです。そこで、こういう準備を始めたというニュースを流します。ちなみに、こういうニュースを流すのは、いろいろな国の政府というのは必ずやります。こうやったら、こういう政策を出したらみんなどう思うかなと、ちょっとまずいなと思ったから引っ込められるようにしているわけです。

私が思ったのは、選挙のためにやっているのだから、これに何をしたら一番効くかと思ったら「これをブロックしたら選挙のためにならない、マイナスになる」という事を示すしかないと思いました。それでUSスチールのCEOに電話して「声を上げてくれ」とお願いしました。それに応えてくれて、約300人の従業員が、USスチールの本社前に集まって声を上げてくれました。

結果として、これがマスコミに流れて、いろいろなクオリティの高い、WSJだとか、色々なところにも出てきます。

そういうこともあり、ちゃんと通すべきものは通すべきだと主張したら、今朝Pull&Refileが報道されているように認められて、大統領選の後まで延びることになりました。

何とかそういう状態に持っていった、というのが今の状況です。

神奈川RC 直前ガバナー 樋口明様

本日はお世話になります。よろしく申し上げます。

地区 米山学友委員長 川崎マリーンRC 増田 敏雄様

川崎北ロータリークラブの皆様には、日頃より米山奨学事業に深甚なるご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。本日はお話しありがとうございます。父と父の弟二人が日本鋼管に務めた鉄鋼一家の出身です。卓話楽しみです。

神奈川ロータリークラブ 吉村真由美様

初めてお邪魔させていただきました。本日はよろしくお話しいたします。

横浜港北ロータリークラブ 藤原友子様

本日はお招きいただきありがとうございます。横浜港北RCより。

川崎鷺沼ロータリークラブ 小川湧三様

お世話になります。

川崎中ロータリークラブ 会長 野口新二様

始めまして、今日の卓話楽しみにして伺いました。宜しくお話しいたします。

川崎中ロータリークラブ 代田美紀様

中ロータリーの代田です。初めてのメーキャップで北ロータリーに参加します。よろしくお話しいたします。

波木井輝昭 会長、米山元章 副会長、石坂想 幹事

本日は日本製鉄株式会社副社長森高弘様から卓話を頂戴します。報道もかなりされているところですので、どこまでお話ができるか分かりませんが、楽しみです。

その他、本日はクラブゲストの皆様が多数いらっしゃってくださっております。皆様、当クラブの例会をお楽しみいただければ幸いです。

川野正久 ポストガバナー、大塚正一ガバナーエレクト

樋口直前ガバナー、また多くの方のご来訪ありがとうございます。森様、本日の卓話、よろしくお話しします。

半澤 剛 君

樋口バスターガバナーほか、多くのお客様、ようこそいらっしゃいました。

RLI ラーニングを楽しく開催しています。

武田信平 君

フロンターレは、ルヴァンカップ準々決勝、ヴァンフォーレ甲府戦を9月4日はホームで8日はアウェーで戦いました。結果は1勝1分け、準決勝進出を決めました。準決勝は10月9日と13日にアルビレックス新潟と戦います。中4日の13日にはリーグ第30節をサガン鳥栖と戦いました。最下位鳥栖を相手に2度追いつかれる苦しい試合となりましたが、アディショナルタイムに山田が決勝点を押し込み3対2で勝利、勝点3を獲得しました。今夜は、ACL ウルサン戦がアウェー韓国で行われます。日本から勝利の気を送り込んでください。お話しします。

横山芳春 君

吉村様、日頃からRYLA 委員会ではお世話になりありがとうございます。

プログラム委員会:松波登 君、佐久間馨 君

本日は日本製鉄、森様をゲストスピーカーとしてお招きしました。よろしくお話しいたします。

親睦委員会: 帯谷昌充 君、武藤光司郎 君、菅沼舜 君、松波登 君、加瀬健史 君、クルーズ由美子 君

本日のゲストスピーカー 日本製鉄株式会社 代表取締役副会長兼副社長 森忠弘様、ようこそお越し下さいました。本日の卓話 よろしくお話し致します。樋口直前ガバナーはじめ多くの皆様、ようこそお越し下さいました。本日、当クラブの例会をお楽しみ下さい。

SAA: 丸山久 君、土田高記 君

本日もニコニコレポートへのご協力、誠にありがとうございます。

	本日	累計
ニコニコレポート	31,000 円	237,000 円
ニコニコボックス	0 円	0 円